

















# 京城日報

刊行所  
東京市丸の内區  
本館  
電話  
定額  
送金

朝鮮總督府  
實務顧問  
池田秀雄  
平井二男  
共著

## 朝鮮讀本

大評好  
緑陰の散策、樹下の逍遙、忍はせよ君が胸深、此の名著！  
○朝鮮江、大同江の流は無言の裡に高句麗を語り、漢江の流は李朝の榮華を傳へ、錦江は百濟の哀史を語り、洛東江は任那の古事と日鮮の古史を物語つて居る（一）  
○一帯の水も國民の發展には大障礙となる。最爲の氣象に富む國民ならでは、多くは水に妨げられて島嶼根性の小國に墮つてしまふのである（二）  
○浪は躍る半空の白、天は浮ぶ無盡の青、朝鮮の海岸線は延長四千三百餘里に達し、地勢、氣候及び潮流の關係上、水産物頗る豊にして、有利の漁場が多い（三）  
○朝鮮の海軍は、天は浮ぶ無盡の青、朝鮮の海岸線は延長四千三百餘里に達し、地勢、氣候及び潮流の關係上、水産物頗る豊にして、有利の漁場が多い（三）

## 朝鮮民刑事令

野村調太郎先生編輯  
好評新刊  
新製綿布製  
定價八拾錢  
送料書留十六錢

## 朝鮮行政法

官民の尖端に輝く  
本書  
○官界に從事せらるる士は、本書によつて一層その實際知識を！  
○將來を官界に求めんとする士は、本書に就てその學理的知識を！  
○受験者は本書を以て日常の師友となし、試験前必讀せよ！  
本書は朝鮮法制の第一人者として、學理と實際に立つ半島の權威、森原先生が、深奥なる學識を傾けて、行政法の一一般理論の要領と、朝鮮現行行政法の全般に亘り、新解釋を試みたる卓越せる行政法指針にして、殊に本版は著者外遊歸國後益々日新月異なる改訂を施したる力作版である。その論證の詳確精練なる、その行文の整然たる、著者の如き新進鋭敏の學者にして實業家にあらざれば到底成し得ざる所である。新編五月裝を新にして讀者に見ゆ、切に大方の清鑑を仰ぐ。

發兌  
松山房  
嚴松堂

# 東郷平八郎全集

## 記念心せよ！

皇國の興廢を一舉に決したる廿五年前の今日を回顧せよ！

修養の糧！講話の資料！  
萬家悉く此の國寶的名著を備へよ  
これこそ家庭永遠の至寶！

偉人の面目に躍る如く  
元帥東郷平八郎傳（年譜）  
第一卷 國民に語る。海戰記。外人の見たる東郷元帥。  
第二卷 國民に語る。海戰記。外人の見たる東郷元帥。  
第三卷 國民に語る。海戰記。外人の見たる東郷元帥。

配本開始！實物書店にあり  
學校、軍隊、青年團、圖書館等より注文殺到！  
第一卷書店品切の節は直接本社へ！

接敵艦先へ敬告敵聯合艦隊  
日天氣晴朗波高  
東郷平八郎

元帥近影贈呈 全三卷  
一冊參圓 贈呈 贈呈 贈呈

相馬御風先生著  
良寛さま  
良寛さま  
良寛さま

王子の泊  
新刊  
王子の泊  
王子の泊

新學期開始  
講座  
講座  
講座

デレット剃刀  
Genuine Gillette Blades  
デレット剃刀  
デレット剃刀



















多田生

多田毅三

多田毅三

多田毅三

横矢武田

事はかならず盛んにはつて心強く思ひ見てを  
 りしを驚かしくつて喜ばれては我ながらよく  
 したと云ふはたはねははめどきは毎日の夜  
 したと云ふはたはねははめどきは毎日の夜  
 したと云ふはたはねははめどきは毎日の夜

ಕುಮಾರವಿಠಲನು

第一編に國民の目、第二編に大日本帝國の目、第三編において道徳論がある。この編目に示されたいふ著者の見解は、何人か、人心の歸附すべき目録といふべきである。惟神道は人倫の大本に著者は國家を觀た人倫の社會生活の安全則とされ平和は道の實行によつて

## 丸尾博通

[illegible]

唱成氏等も共

石井相學氏 二十六日夜  
南へ向ふ  
友田陽國氏偕履 二十七日  
本社兼海閣に於て  
『早春風景』の二點に  
るにじみが圓面にたゞと  
氣になる。それは多分支  
用ひられた結果ではある  
『支那町』の方に氏の今  
が根を張つてもゐるし色

特に構えたりとも肩

國民の本分  
上内恒三郎  
読まゆく世相、混同の思  
まらぬ、鋭路に思ひ感と  
條の大照明、坦々たる本  
たものは本書である。至  
の官海數十年の生活に、  
限らない犯罪事實を見、  
して感して文字通り世  
知り悉くして來た人では  
に本書を上梓したのでは  
に本心を通るに  
ものであらう。全篇に

また、この編纂に示された

更に著者は、國家を觀たに人類の社會生活の安全則と類の共存共榮は平和によつてされ平和は道の實行にとゞまれば忠孝の二字である。孝の概念は敬神であり忠は神社中心主義であります。神社中心主義でなく主權であります。

Environ. Biol. Fish.

あり、ゆゑに神社は、  
す、如何なる宗教を信ず  
國民の義務に背く事にな  
ります。敬神は孝の大た  
ありますから神社を崇敬  
ふことは、即ち宗教の上  
てなければなりません。  
を経営せしむるには我々  
國を辱むること安直に無  
こと濃厚なりまいかと  
せしめたならば自ら

對任務はす

惟神皇の國璽に國君すは君臣一體の道義である徳本貫は萬代不易、人を稱ふべきではなく、脱き古されたところの永久に新しく説かるべしるが故にそこに奇なく從來則もすれば理想の迷ふことの少からざるた。本書はこの道義をに。法理的解説を進め

藥をして

そといふ噂がもつぱ  
これが實現すると文  
早稻田系で占める  
細田源吉、細田兵衛  
官島新三郎、廣津和  
いつそ文藝を早稻田  
しよふのが手ヲ取り  
をも與へない周到の用  
けた點。従来の漫然た  
獨斷に似た道義論とは  
異にしてをり。題され  
に新しい力と戰方を  
迎ふものがある。正に  
べき好著としていかな  
惜みなく押げんと欲す

## 1

忽水城歌會の  
日重べて降りたる雨に  
餘閑の廣遠折れぬまた  
庭木々の若葉となりて  
心しまらにわく思ひあ  
君愛國の精神が溢れ出  
ります、私は之を説明  
となる喚應を作りまし  
五十一月一日東京市九手


丁巳年

朝鮮を巡遊したいと思ふから各地とも宜しくを御願申上ます、私が思ひ立つたのは大正六年度の爲に翌七年四月薩摩が後嗣の妻があつたのを経過したのであり昨へ出張するに就てのしてみました

耳に響く

道に異  
 あり  
 あり  
 とあ  
 い、  
 りみ  
 のつ  
 明快  
 の際

咸興石楠倉  
 あたり、庭を白き  
 ぬめ道林檎の花の中へ  
 垂れゐる山家、ササ  
 花林檎、跳子等、花



七・木の口

の呼吸

する時、そして阿は  
 する時聞  
 ◇血と結び縁と繋ぎ  
 奥深く入つて行  
 誰れをも御まう  
 しく越年し、空  
 るる二十代の後  
 なき世帯と自棄  
 ない、俺が致へ  
 ◇とう／＼彼女は左  
 つかれて果てや  
 親の許に因つて  
 道程に、苦しい  
 れるやうな道草  
 傾きくれない情  
 手ふとこす、

短

川井 井上 日田 佐佐木 川井 井上 日田 佐佐木  
俳句 詩句 民謡 童歌 兒童歌 兒童歌  
一人充て、五首、三  
用紙は、封筒に附、封  
封紙に「謝詞」を明記の上、封  
原紙に住所氏名を  
橋本健月未日のことよ

二

目下茶館中の火曜日の夜はわづかに一客を明かしそればかりにスタール博士を誘つて見物

神な  
り持つ

[illegible]







(B1)  
挿  
畫  
嶺  
田  
弘

一	五	九	三	五	七	九	一
は	れ	上	六	五	か	か	は
四	十六	五	十	五	五	五	四
二	六	十	六	十	十	十	二
に	上	上	上	上	上	上	に
十六	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十六
三	七	七	七	七	七	七	三
ほ	れ	た	た	た	た	た	ほ
四	五	八	八	八	八	八	四
四	八	十	十	十	十	十	四
二	七	十	十	十	十	十	二
一	六	五	五	五	五	五	一

[illegible][illegible]